

いわき農林水産ニュース

平成29年11月号(第153号) 発行 11月30日

ふくしまからはじめよう。

『食』と『ふるさと』新生運動ニュース



冬のイメージにぴったりなシクラメン。
クリスマスプレゼントにどうぞ。

目次

- ・【特集】高病原性鳥インフルエンザ防疫対策……p.1
- ・【重点施策】県産農林水産物の消費拡大・販売促進 p.3
〔管内の各種取り組みの実績(10~11月)〕……p.5~
〔お知らせ〕
- ・いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果 p.10
- ・イベント情報……p.11
- ・「いわきの今を見に行く！モニターバスツアー」
アンケート結果……p.12
〔連載記事〕
- ・GAP コーナー……p.13
- ・6次化商品紹介……p.13
- ・いわき管内の県農林水産部関係機関業務紹介……p.14

【特集】高病原性鳥インフルエンザ 防疫対策

不測の事態に備え、防疫演習を開催

高病原性鳥インフルエンザの発生リスクが高まるシーズンを迎えます。大切なのは、初動対応(人的・物的準備)、関係機関の連携、そしてみなさんの関心とご協力です。

1 高病原性鳥インフルエンザはどんな病気？

鳥インフルエンザはA型インフルエンザウイルスが引き起こす鳥の病気です。その中で、高い致死性と強い感染性を示すものが「高病原性鳥インフルエンザ」であり、家畜伝染病予防法で家畜伝染病に指定されています。

ウイルスは感染した鳥の糞便等を感染源として拡散します。家きん(鶏、あひる、うずら、きじ、だちょう、七面鳥など)への感染ルートははっきりと解明されていませんが、渡り鳥からの感染などが有力と考えられており、渡り鳥が日本国内に飛来する秋~冬にかけて発生リスクが高まります。

家きんで高病原性鳥インフルエンザが発生すると、発生した農場だけでなく、周辺にある農場へも病気が拡散する恐れがあり、甚大な被害を受けることとなります。そのため、高病原性鳥インフルエンザが発生した場合は、拡散防止のため、速やかな防疫措置が必要となります。



〔南部アリーナでの防疫演習
関係車両の消毒作業の様子〕

2 発生の状況は？

これまで、福島県内において、家きんでの発生事例はありません。しかし、昨シーズンは全国的に高病原性鳥インフルエンザが多発し、隣接する宮城県や新潟県を含め9道県で160万羽以上の家きんが殺処分されました。今年度も、11月6日に島根県で野鳥から発生が確認されており、本県でも、いつ発生してもおかしくない状況になっています。

3 対策は？また、発生したらどのように対応するの？

対策として、まずは発生させないことが最も重要であり、そのためには、農家の方の防疫意識を高めていただくことが必要です。また、いわき家畜保健衛生所では定期的に農場へ立入検査を行い、衛生管理の指導を行っています。

万が一、家きんで高病原性鳥インフルエンザが発生した場合、県職員が中心となって、防疫措置を行います。特に、家きんの殺処分、農場の消毒等初動防疫措置は発生から原則72時間以内に行う必要があるため、昼夜を問わず24時間体制で作業を行います。

4 防疫措置の準備

高病原性鳥インフルエンザの初動防疫措置は短期間で完了する必要があるため、日頃の入念な準備が重要です。また、防疫措置には県職員だけでなく、関係機関・団体等の協力が必要となります。

いわき農林事務所では万が一に備え、「福島県高病原性及び低病原性鳥インフルエンザ対策いわき地方連絡会議」を設置し、関係機関・団体等と協力体制を構築しています。今シーズンは10月18日(水)に会議を開催して緊急時の連絡体制や初動対応等の確認を行いました。



(10/18 いわき地方連絡会議)

また、11月10日(金)には、いわき市立南部アリーナにおいて、実際の発生を想定した防疫演習を実施しました。防疫演習には関係者100名以上が参加し、参加者は防疫作業時に着用する



(11/10 防疫演習 作業内容の説明)

防護服の着用や捕鳥、関係車両の消毒等を体験することでスキルアップを図りました。

高病原性鳥インフルエンザはこれから発生リスクが高まる本格的なシーズンを迎えますが、引き続き万全な体制整備をしてまいります。

(農業振興普及部)



(防護服の着衣演習)



(捕鳥演習)



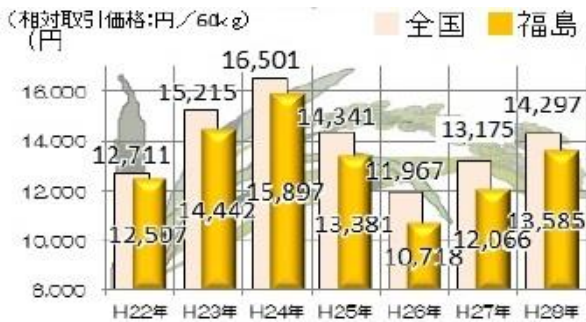
(大きい鶏は約3kgにもなります)

県産農林水産物の消費拡大・販売促進に取り組んでいます

1 福島県産農林水産物の流通・消費の現状

県産農林水産物の価格が震災前まで回復せず、購入をためらう人も一定の割合で存在しています。

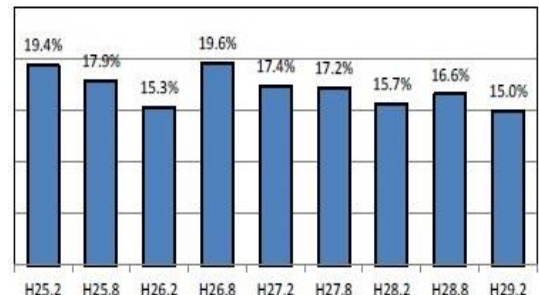
＜福島県産米の全国平均との価格差＞



出典 農林水産省「米の取引価格」に基づく県推計
H28年の価格はH29年1月までの数値に基づく暫定値

→全国比
▲5%(H28年)

＜福島県産の購入をためらう人の割合＞



出典 消費者庁「風評被害に関する消費者意識の実態調査」結果

→1.5%程度の人が購入を躊躇

2 福島県の流通・販売強化対策

(1) 安全な農林水産物の供給

- ・モニタリング検査や米の全量全袋検査等により安全を確認し、検査結果を消費者に正しく発信
- ・第三者認証GAPの取組を拡大し、消費者や流通販売関係者に安全性と信頼性をPR等

(2) 販路開拓と販売力の強化

- ・消費者や食品加工業者等の多様なニーズを的確に把握
- ・量販店等での販売促進活動や商談会開催、バイヤーツアー、オンラインストア等での戦略的なプロモーションを展開等



〔ベトナムのイオンでの知事によるトップセールス サンシャインいわき梨(幸水)〕

(3) 県産農林水産物の魅力の発信

- ・「ふくしまプライド。」のテレビCM等により県産農林水産物の魅力と生産者の誇りを幅広く消費者に発信
- ・「ふくしまプライド。」フェアなど、旬を捉えて開催し、直接消費者等に魅力を訴える。



3 いわき地方における取組

いわき地方では、県産農林水産物の美味しさや安全性をPRし、消費拡大・販売促進に寄与するため、農林事務所が「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーンを市内量販店や集客施設等で毎年3回実施しています（11月に実施した3回目のキャンペーンについては、p.7に掲載しています。）。また、市や民間団体が取り組む販売促進活動について、ふくしまの恵みPR支援事業により支援を行っています（詳細：次ページ）。

（企画部）

ふくしまの恵みPR支援事業の概要

【ふくしまの恵みPR支援事業とは】

県内の市町村、民間団体※、県域等農業団体が、国内において実施する県産農林水産物等（県産農林水産物を使用した加工品を含む。）の販売促進活動に対して、支援を行い、風評の払拭を図り、県産農林水産物等の販売・消費の拡大に資することを目的として行われている事業です。

※民間団体とは県内に主たる事務所を置く次の団体

農林漁業者の組織する団体、商工業者の組織する団体、特定非営利活動法人、事業協同組合、公益社団法人、公益財団法人、一般社団法人、一般財団法人

【対象とする活動及び補助対象経費】

国内において実施する県産農林水産物等の販売促進に要する経費

＊補助対象経費＊

事業委託費、広報費、旅費、資材作成費、ウェブサイト作成・維持費、イベント運営経費、謝金、通信運搬費、保険料、施設借料、試食等サンプル経費、車両借上料、消耗品費等

（民間団体事業の補助上限額 750千円）

☆今年度の事業活用内事例☆



（東京で県産農林水産物をPR）



（いわき市産農産物等を使用した料理の販売）

※次ページの「海鷹祭」、「いわき Park de Kitchen」も、本事業を活用しています。

お問い合わせ

平成29年度ふくしまの恵みPR支援事業は、2期募集を行っています。活用を希望される方は、下記までお問い合わせください。

○事業対象期間：平成29年12月29日（金）～平成30年2月28日（水）

○申込期限：平成29年12月15日（金）

県としては、今後も県産農林水産物の販路拡大に向けた取組を支援していきますので、その他ご要望等ありましたら、ご連絡願います。

福島県いわき農林事務所 企画部

◆TEL：0246-24-6152、6197

漁青連いわき方部会(海鷹祭) [11月4日~5日(金・土)]

県漁業協同組合青壮年部連絡協議会いわき方部会が、試験操業で漁獲されたいわき産水産物の消費拡大及び販売促進を目的にふくしまの恵み PR 支援事業を活用して、東京海洋大学海鷹祭(うみたかさい)に参加し、ホッキの酒蒸しの振る舞いと試験操業のPRチラシの配布を行いました。



(ホッキの酒蒸しの振る舞い)

ホッキの酒蒸しは1,500食を15回に分けて提供しましたが、毎回長蛇の列ができ、瞬く間に配り終わりました。試食者からは、多くの応援メッセージをいただきましたが、いわき産水産物をスーパー等の販売店であまり見かけないとの意見もあり、試験操業での漁獲量増が新たな課題であると感じました。

海鷹祭への参加は5年連続となり、多くのリピーターも生まれ、いわき産水産物を購入したい、購入しましたとの意見もあり、消費拡大・販売促進につなげるためには、こうしたイベントでの地道なPRの継続が大事であると言えます。



「福島海プロジェクト2017」

また、同日には「福島海プロジェクト2017」も開催され、いわき市漁業協同組合の底びき網及び船びき網に着業する漁業者4名が参加しました。実際の操業風景の動画を参加者と見ながら、漁業者が網や漁具等の専門的な説明から、操業でのよもやま話までを紹介しました。福島県の水産業の現状を十分に紹介できました。(水産事務所)

「いわき Park de Kitchen」開催

[11月3日(金)]

いわき Park de Kitchen 実行委員会といわき市の主催により、いわき市平中央公園を会場に「いわき Park de Kitchen」が開催されました。ふくしまの恵み PR 支援事業を活用しています。



(青年クラブによる販売ブース)

当日は天候に恵まれ、24の団体や飲食店が、テントの軒を連ねて販売などを行い、約4,500名の来場者は、生産者こだわりの野菜を買い求め、それらを調理したシェフの創作料理などを堪能していました。

いわき地区生活研究グループ連絡協議会では、地場野菜を始め、「いわき昔野菜」の「とっくり芋」、「おかごぼう」のほか、自家製コンニャクを使用した豚汁150食を販売しました。いわき農業青年クラブ連絡協議会は、新米や自家製のジャムなどを、ていねいに説明しながらPR、販売しました。

直売に参加した生産者は、消費者との交流を通じて、今後の生産活動の参考にしようと、しっかりと消費者ニーズの情報収集を行っていました。(農業振興普及部)

いわき中央卸売市場開設40周年記念式典

〔11月14日(火)〕

パレスいわやにおいて、市場関係者や来賓180名の出席のもと、いわき中央卸売市場開設40周年記念式典が開催され、清水いわき市長より「社会情勢の変化に対応できる市場づくりを目指す」との式辞が述べられました。また、永年に渡り市場の発展に貢献された、小沼幸誠氏（(株)いわき中水代表取締役社長）へ東北農政局長感謝状が、鈴木勝夫氏（(株)平果取締役会長）へ知事感謝状が贈呈され、優良出荷者や優良買受人など関係事業者の方々へ、市長感謝状・大会会長表彰状が贈呈されました。

いわき中央卸売市場は、昭和52年に「青果部・水産物部」が開設され、昭和62年に「花き部（H28年度より公設地方卸売市場へ転換）」が業務を開始し、いわき市や近隣市町村への生鮮食料品の安定供給に寄与しており、生産と消費の両サイドから信頼される市場として、さらなる発展が期待されます。

（農業振興普及部）



知事感謝状贈呈

右：(株)平果 鈴木会長

右から3人目：県農林水産部 天野次長

40周年記念イベント「市場まつり」開催！

10月29日(日)には、市場開設40周年記念イベントとして、「みんなで食育！楽しく花育！」をテーマに、5年に1度の「市場まつり」が開催され、1万人余りの市民が市場を訪れました。当日は、来場者が参加しての「模擬せり」を始め、飲食コーナー、花や生鮮食品の即売会、マグロの解体、フラダンスショーなど様々な催し物が開催され、参加者はこのイベントを通じて、市場の役割に理解を深めていました。



（開会セレモニー）



（来場者による「模擬せり」）

全国植樹祭カウントダウンボード設置

〔11月22日(水)〕

平成30年6月10日(日)に南相馬市で開かれる第69回全国植樹祭の開催日200日前を記念して、11月22日(水)、JRいわき駅構内改札口正面にカウントダウンボードが設置されました。

また、同日、いわき駅前広場において、いわき農林事務所職員による街頭広報活動を実施し、全国植樹祭のチラシを配布して、一般参加者応募の呼びかけを行いました。

（森林林業部）



（全国植樹祭まであと200日です！！）

草野小学校で「田んぼの学校」開催

〔10月27日(金)〕

ふくしまの農育推進事業「田んぼの学校」が開催され、いわき市立草野小学校と福島県立聴覚支援学校平校の5年生児童合わせて75名が稲刈りを行いました。

開会式では田んぼの学校の地元農家の富岡正治さんより「台風の影響が心配だったが、予想していたより大きく育ち、驚いている。」とお話がありました。

収穫作業に入ると、児童たちは代わる代わる稲刈り鎌を振るい、30分程度であっという間に刈り取りが終了しました。子どもたちからは、「田んぼがぬかるんで大変だったけれど、いい経験になった」といった声も聞かれ、田んぼ作業の大変さを実感している様子でした。



(稲が育ちすぎて大変！重いなあ～)

(農村整備部)

第2回いわき地方農地中間管理事業等推進連絡調整会議〔11月7日(火)〕

いわき合同庁舎において、平成29年度第2回いわき地方農地中間管理事業等推進連絡調整会議を開催しました。

構成機関のいわき市、農業委員会、福島さくら農業協同組合、地域農業再生協議会、農業共済組合いわき支所、土地改良区、福島県農業振興公社等の担当者が参集し、今年度上半期の取組実績(約210haの集積)や重点地区の推進状況、土地改良法改正に伴う「機構関連事業」等について情報を共有するとともに、今後の推進について意見交換を行い、各関係機関の役割分担や未相続の農地の取り扱い等について再確認しました。



(会議の様子)

引き続き、関係機関の連携を密にし、人・農地プランの作成を始め、認定農業者の育成確保、農地中間管理事業を活用した担い手への農用地利用集積を推進して参ります。(農業振興普及部)

第3回「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーン〔11月12日(日)〕

ワンダーファームにおいて、今年度3回目のキャンペーンを開催し、県産農林水産物の安全性や美味しさをPRすると同時に、第三者認証GAPのPRを行いました。

いわき産新米「Iwaki Laiki」と「天のつぶ」及びご飯のお供となる6次化商品(下表)の試食を実施し、「どちらのお米もとても美味しい」、6次化商品についても「美味しかったので購入したい」といった声が聞かれました。当日、ワンダーファームでは「ママフェス」

- ①小川きこの園の「エリンギ茸のオリーブオイル漬け」
- ②(有)加茂農産の「なめこの佃煮」
- ③(株)ウインドファームの芽子にんにくを使用した「芽子にんにく味噌(甘みそ)」
- ④福島県漁業協同組合連合会の「福島海の宝 かつおフレーク油漬(缶詰)」

ームでは「ママフェス」も開催され、親子連れを中心に会場は賑わいを見せました。

アンケート調査の結果、県産農林水産物の購入意欲に関して、「購入してもよい・積極的に購入したい」が全体の約93%を占めました。(企画部)



アンケート協力者には、「Iwaki Laiki」か「天のつぶ」をプレゼント

「第3回やさい教室 収穫祭」

〔11月1日(水)〕

いわき農業青年クラブ連絡協議会は、いわき市立常磐第一保育園において、園児57名を対象に、「第3回やさい教室 収穫祭」を開催しました。

本教室では、園児達に農業や農作物を身近に感じてもらうことを目的に、第1回では苗植会、第2回は夏祭り「野菜つり」を開催しました。最終回である今回は、収穫した野菜を調理して味わう「収穫祭」でした。

園児達は、クラブ員と触れあいながら収穫したサツマイモを切るなどの作業を行いました。クラブ員は、「今年度のやさい教室は終了してしまっただが、来年も行き続き食育活動を実施したい」と抱負を述べていました。



〔園児と触れあう
青年クラブ蛭田会長〕

(農業振興普及部、企画部)

第2回第三者認証GAP取得に向けた研修会・相談会

〔10月25日(水)〕

福島さくら農業協同組はいわき地区本部において、「第2回第三者認証GAP取得に向けた研修会・相談会」を開催し、6名の生産者が受講しました。

研修会では、農林事務所担当者より、ふくしま県GAP(通称:F GAP)を中心とした第三者認証GAPの具体的な取組内容について説明を行い、その後、認証取得に向けた具体的な準備の進め方等について個別相談を実施しました。

参加した生産者からは、自らの農場と照らし合わせて認証に必要な取組事項について多くの質問が出され、研修会を機にGAP認証取得を目指す意志を固めた生産者も増えました。引き続き、農林事務所を挙げて、第三者認証GAPの周知活動や、生産者の認証取得支援を行ってまいります。



(研修会の様子)

(農業振興普及部)

第2回いわき地方GAP推進協議会

〔11月17日(金)〕

福島さくら農業協同組合大野支店において、第2回いわき地方GAP推進協議会を開催しました。本協議会は、生産者、市場流通業者、消費者等が連携し、農業者の第三者認証GAP導入拡大を目的に設置されたものです。

会議では、第三者認証GAPの推進状況に関する情報共有と、今後の活動計画や消費者や流通関係者へGAPの認知度を高めていく観点で議論を行い、生産部会ぐるみによるGAPの取組推進を始め、専用ホームページの作成や量販店におけるPRの実施等を申し合わせました。



(現地視察の様子)

さらに、本年4月にJGAPの認証を取得された(株)JRとまとランドいわきファームの生産施設において、同社川口主任からGAPの取組状況について説明を受け、各委員は、どのようにトマト生産の安全性や労働者の安全、環境の保全が確保されているのか、理解を深めました。

(農業振興普及部)

中央台東小学校3年生が秋冬ねぎ生産現場を見学【11月10日(金)】

中央台東小学校3学年の児童71名が、社会科見学として四倉町のネギ生産者である新妻辰良さん夫妻を訪れました。

ほ場では、好奇心豊かな児童達から、栽培方法や品種特性など多岐に渡る質問がなされ、新妻さんは笑顔を見せながら答えていました。また、その場で抜き取ったネギを実際に食してみたり、完熟堆肥に触れてみたりと、児童達は五感を使ってねぎの生産について学びました。

その後、作業場で管理機や農薬散布機を見学し、農林事務所による秋冬ねぎの栽培に関する説明も聞き、いわきのねぎ生産に対する児童達の関心が深まっていました。



〔その場で皮をむいて現れた真っ白なねぎに、子ども達の歓声が上がりました〕

(農業振興普及部、企画部)

復興・久之浜漁港まつり2017

【10月29日(日)】

久之浜漁港において、復興・久之浜漁港まつり実行委員会が主催して開催しました。平成13年から、「海龍祭」として盛大に開催していましたが、震災により中断していました。震災後6年が経ち、漁港と周辺施設の復旧が進んだことから、2016年に「復興・久之浜漁港まつり」として復活したものです。

昨年に比べ、台風22号の影響で来客数は伸び悩んだものの、試験操業の漁獲物の販売や県漁連が出店したサンマの販売は盛況で、午前中に完売しました。また、県栽培漁業協会の協力



(開会式の様子)

によりヒラメ稚魚の放流が企画され、子ども達は、はじめての体験に大変喜んでいました。その他、ステージイベントや鍋の無料試食など盛りだくさんの内容で、来場者に満足していただきました。

出席した複数の漁業者から、「今回は雨模様だったが、来年も地域を挙げて開催したい。」との話が聞かれ、久之浜地区全体でこのイベントを大切にしている事が伺えました。(水産事務所)

羽田空港&海ほたるPAでのPRイベントに参加【10月20・21日(金・土)】

県広報課主催の「ふくしまフェスタ in 羽田空港」とNEXCO東日本主催の「復興支援・観光誘客イベント in 海ほたる PA」にブース出展し、いわき市の魅力のPRを行いました。

いわきブースでは、観光パンフレットのほか、特産品や農林水産物に関するパンフレットを配布しました。また、両日ともに、アンケートに回答していただいた方々約150名に、今年収穫された新米「Iwaki Laiki」と、常磐ものの「カツオのフレーク缶詰」をプレゼントしました。

これらのイベントを通して、いわき市の農林水産物の良さと風評払拭のPRを首都圏等在住者に対して図ることができました。



〔「Iwaki Laiki」とかつおフレーク缶詰は大人気!〕

(いわき地方振興局)

お知らせ

いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果（平成29年10月分）

□ 農林畜産物の検査結果

検査した11品目24検体すべてにおいて、放射性セシウムは基準値以下でした。内訳は（表1）のとおりです。また、出荷制限状況は（表2）のとおりです。（企画部）

（表1）放射性セシウムが基準値以下の品目と検体数

ネギ 1、カボス 1、スダチ 1、ユズ 1、カキ 3、サトイモ 1、ニンジン 1、菌床しいたけ（施設）5、原木しいたけ（施設）1、牛肉 4、原乳 5
--

（表2）出荷制限および出荷自粛品目（10月末現在）

制限、自粛	区 分	品 目
出荷制限	山 菜	たけのこ、ぜんまい、たらめ（野生のものに限る）、わらび、こしあぶら
	きのこ	原木なめこ（露地）、野生きのこ（摂取も制限）
出荷自粛	山 菜	さんしょう（野生のものに限る）
	果 物	クリ（該当生産者に限る）

□ 海産魚介類の検査結果

平成29年10月の水産物モニタリング検査では、595検体の魚介類を検査し、放射性セシウムの基準値（100Bq/kg）を超えたものはありませんでした。

放射性セシウムの検出限界値未満（以下、ND）の割合は、平成29年10月には97.0%となっています。10月31日現在の出荷制限等指示魚種は表1の10種類になっています。

（水産事務所）

（表）海産魚介類に関する国の出荷制限等指示

ウミタナゴ	サクラマス	ムラソイ
カサゴ	シロメバル	ビノスガイ
キツネメバル	スズキ	
クロダイ	ヌマガレイ	

平成29年10月31日現在

トピック

有限会社とまとランドいわき 鯨岡千春さん、2017年秋の黄綬褒章受章！

四倉町の（有）とまとランドいわき代表取締役の鯨岡千春さんが、秋の褒章で黄綬褒章を受章されました。黄綬褒章は、農業・工業・商業などの業務に精励し、他の模範となるような技術や事績を有する方に贈られるものです。

鯨岡さんは、平成2年、大和田正幸氏（現 JA 福島さくらいわき地区本部長）らと共に（農）大野水耕生産組合を立ち上げ、県内でもいち早く大規模施設によるトマトの養液栽培に取り組み、平成13年には、（有）とまとランドいわきを設立し、きめ細かな環境制御により全国屈指の収量を誇る経営を確立されました。地域雇用の創出による地域活性化はもとより、県指導農業士として、研修生の受入れなど後進の育成等にもご尽力されており、平成25年度には、農林水産祭の園芸部門で「天皇杯」を受賞されています。

このたびの鯨岡さんの黄綬褒章受章を、心よりお祝い申し上げますとともに、今後、益々のご活躍を祈念しております。



黄綬褒章を受章された鯨岡千春さん・妻の悦子さん

イベント情報

「たびとグルメラリー」開催中！

- 日 時：平成29年11月23日（木・祝）～12月3日（日）11：00～14：00
- 場 所：田人地区全域 飲食店11店舗参加
- 主 催：田人復興祭り実行委員会（事務局/田人支所）

1食500円で田人地区内の飲食店を回れるスタンプラリー。抽選で田人の特産品が当たります。

「第1回 高校生レシピコンテスト」 アイデアレシピ募集中！！

いわき市内の高校生を対象に、いわきの農産物を使ったレシピコンテストを実施します！

★応募締切：平成30年1月9日（火） 必着

今回のテーマは「いわき産トマト」です。

料理部門・スイーツ部門の2部門で、1月12日（金）に1次選考（書類）を、1月21日（日）に2次選考（実食）を実施します。

各部門の受賞作品は、ワンダーファーム「森のキッチン」などのレストランメニューに採用されます。

市内の高校生の皆さん、たくさんのご応募お待ちしております！

○応募方法
サイトから応募用紙をダウンロードし、必要事項を記入及び作品写真を添付の上、郵送又はメールにてご応募ください。

○応募先&お問合せ先
〒970-8026
いわき市平字梅本15番地
福島県いわき農林事務所内「第1回 高校生レシピコンテスト」係
Mail：kikaku.af07@pref.fukushima.lg.jp
TEL：080-5738-1433

主催 福島県いわき農林事務所 共催 株式会社ワンダーファーム

今回のテーマは「いわき産トマト」です。

料理部門・スイーツ部門の2部門で、1月12日（金）に1次選考（書類）を、1月21日（日）に2次選考（実食）を実施します。

各部門の受賞作品は、ワンダーファーム「森のキッチン」などのレストランメニューに採用されます。

市内の高校生の皆さん、たくさんのご応募お待ちしております！

○応募方法

サイトから応募用紙をダウンロードし、必要事項を記入及び作品写真を添付の上、郵送又はメールにてご応募ください。

○応募先&お問合せ先

〒970-8026
いわき市平字梅本15番地

福島県いわき農林事務所内
「第1回 高校生レシピコンテスト」係

Mail：kikaku.af07@pref.fukushima.lg.jp

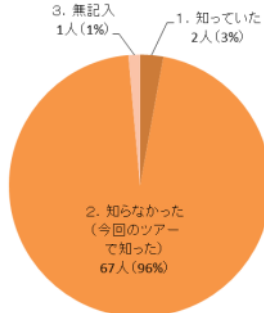
TEL：080-5738-1433

「いわきの今を見に行く！モニターバスツアー」 アンケート調査結果

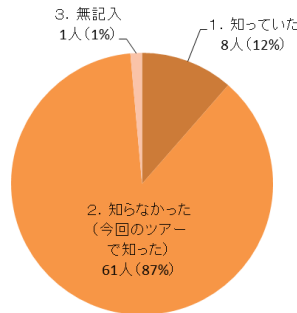
10月14・21日実施

「いわきの今を見に行く！モニターバスツアー」については、先月号（第152号）で紹介しましたが、参加した首都圏の学生70名にアンケート調査を行っておりますので、その主な結果について報告します。

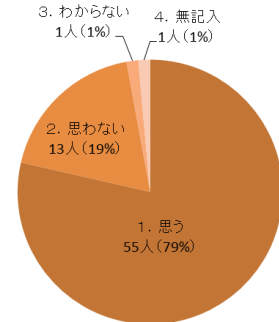
問 GAP（農業生産工程管理）を知っていたか？



問 福島県が米の全量全袋検査をしていることを知っていたか？



問 これからも全量全袋検査をした方がいいと思うか？



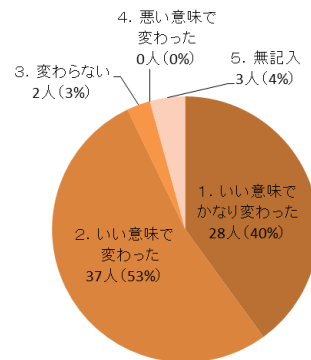
GAP・全量全袋検査に関しては大多数の学生に知られていませんでしたが、説明を受けた学生からは、「(GAPに関して) 第三者が品質や安全性を保証することで消費者は安心して購入できる」、「消費者の信頼を確実に得て風評被害をなくすためにも、全量全袋検査は必要」などの意見があり、安全・安心に関する取組への期待の高さが伺えました。

問 福島県産農産物を購入したいと思うか？



購入に前向きな回答（積極的に購入したい/購入してもよい）が89%です。「今回のツアーを通じて、なんとなく“福島産の購入をやめておこう”という気持ちは薄れた」という意見がありました。

問 今回のツアー参加で福島県の印象は変わったか？



「いい意味で(かなり)変わった」が93%を占めており、「福島のお食べ物はかなり安全性が高いことがわかった」など、安全性の高さに関する意見が多くありました。

アンケート結果では、実際にいわきに来て・見て・話を聞いて、本県の印象が良い方向に変わっており本ツアーの成果があったものと思われます。今後とも安全性のPRに努めてまいります。

(企画部)

ご参加ありがとうございました！！



(10/14 参加者の皆さん)



(10/21 参加者の皆さん)

GAP 認証取得事例紹介～株式会社 JR とまとランドいわきファーム～

今年4月にJGAP 認証を取得した(株)JRとまとランドいわきファームにお話を伺いました。

GAP 導入に伴い、整理整頓・在庫管理、作業場内の危険な箇所の注意喚起を徹底しました。それにより、経営の効率化につながったことはもちろん、作業場の安全、商品の安全の意識が明確化し、従業員一人一人がこれまで以上に責任感を持って作業できるようになったといえます。



(作業の安全のため、注意喚起の表示を強化)



(農場運営担当の川口氏)

～第三者認証 GAP を検討している方へ～

認証手続きを通して、農場の正しい運営について改めて勉強することができます。これは、農業初心者にとっても、熟練者にとっても、GAP 取得の大きなメリットではないでしょうか。また、基本の整理整頓・定位置管理を徹底するだけでも、余計な手間やコストの削減につながりますので、難しく考えすぎず、できることから改善していこうという気持ちで取り組んでいただければと思います。

お知らせ 12月6日(水)、県いわき合同庁舎でGAP相談会を開催します。

参加を希望される方は下記までご連絡ください。

◆時 間：13:30～15:30

◆TEL：0246-24-6161

◆会 場：4階西中会議室

(いわき農林事務所 農業振興普及部 担当：味戸・佐藤)

「ふくしま地域産業6次化新商品カタログ」に掲載された 6次化商品をご紹介します！

木村ミルクプラント(株)では、こだわりのヨーグルトを便利なパウタイプで販売しています。空気に触れずに保存可能で日持ちが良く、生乳仕立てのもっちりとしたヨーグルトを長く楽しめます。また、たっぷり入っているのに冷蔵庫のドア側にも入りますので場所を取らず、手を汚さずに好きな分だけ取り分けられます。ご家族のいる方や、お一人暮らしの方など毎日の習慣にしたい方におすすめです。味はスイートとプレーンの2種類からお選びください。この商品は、いわき市内のヨークベニマル、イオン、ネット販売でもお買い求めいただけるほか、市内全域の宅配も承っております。また、木村ミルクプラント(株)のFacebookでも様々な情報を提供しておりますので、是非ご覧ください。



営業部 我妻さん

「命の榮」木村こだわり ヨーグルトスイート1000g

内容量/1000g
販売価格/830円(税込)

5つの乳酸菌とガラクトオリゴ糖を使用した生乳仕立てでほどよい甘さと、もっちりとした食感が特徴です。



「命の榮」木村こだわり ヨーグルトプレーン1000g

内容量/1000g
販売価格/770円(税込)

5つの乳酸菌を使用した生乳100%仕立てのため、果物や蜂蜜などとも相性が良く、さっぱりもっちり特徴です。



木村ミルクプラント 株式会社

●いわき市平下神谷字宿135 ●TEL.0246-34-2542

Web <http://www.kimura-milk.co.jp>

Facebook <https://www.facebook.com/pg/kimura.milk/posts/>

「ふくしま地域産業6次化新商品カタログ」は「ふくしま6次化情報STATION(<http://6jika.com/>)」に掲載されていますので、是非ご覧ください。

いわき管内の 県農林水産部関係機関 業務紹介

本コーナーでは、いわき管内の県農林水産部関係機関の業務を紹介いたします。今回は、水産試験場を紹介いたします。

福島県水産試験場は、本県水産業の振興を試験研究の立場から支援する組織です。東日本大震災以降は、操業を自粛している沿岸漁業の再開に向け、本県海産魚介類の放射性物質に関連する調査・研究、操業自粛により増加したヒラメ、カレイ類等の資源状況の調査や増加した資源を有効かつ持続的に利用するための研究等に取り組んでいます。この他、つくり育てる漁業の再構築と高度化を図るためのホシガレイ種苗生産研究、磯根に生息するアワビの資源研究等にも取り組んでいます。

得られた成果の一例として、放射性物質に関連するものについては、出荷制限の対象となっている魚介類の解除に必要な資料とする他、速やかに漁業関係者等に説明するとともに、消費者の方々にも科学的データに基づく本県海産魚介類の安全性PRに活用しています。今後ともこれら試験研究に精力的に取り組む、本県沿岸漁業の復興、再生を支援していきます。

水産事務所の主な業務

- ・放射性物質が海面漁業に与える影響の解明
- ・ヒラメ等栽培漁業対象種の放流技術に関する研究
- ・優良種苗の生産技術の開発
- ・カレイ類等沿岸性底魚類の生態と資源動向の解明
- ・カレイ類等底魚資源の管理手法に関する研究
- ・海況予測技術に関する研究
- ・コウナゴ等沿岸性浮魚類の漁場形成予測技術の開発
- ・アワビ等磯根資源に関する研究
- ・松川浦の増養殖の安定化に関する研究（相馬支場）



(漁業調査船「いわき丸」)



いわき農林事務所

キャッチフレーズ

このキャッチフレーズには、「燦々と降り注ぐいわきの太陽の光のように、農林業に携わるすべての人に、一日でも早く真の笑顔があふれるよう、所員が一丸となってスピード感と緊張感を持って目に見える成果を求めていく」という思いを込めています。

◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。

福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課

〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地

(県いわき合同庁舎 3階)

T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196

U R L <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/>



いわき農林水産ニュース